

監修に寄せて

『最新 3DS 環境 う蝕ステージペリオステージ』は、前書『チェアーサイドの 3DS ってなに？ ガイドブック』をさらに発展させたものです。近年の医学は基礎と臨床の両面でめざましい進歩がみられ、疾病原因の多くが解明されたため、さまざまな疾患に対して臨床的な予防の方略がたてられるようになりました。医療の憲法である「医療法」においても、「(医療の内容は) 単に治療のみならず、疾病の予防のための措置及びリハビリテーションを含む良質かつ適切なものでなければならない」と記され、リハビリテーションとともに「疾病の予防のための措置」が積極的に医療のなかに取り入れられようとしています。たとえば内科では、検査値の異常を生活習慣病（メタボリックシンドローム、高血圧、糖尿病、高脂血症、肥満、高尿酸血症など）と診断し、異常値が正常値になるまで治療を継続しています。これに対して歯科医療は、日常的な検体検査を行わず、実質欠損を伴う疾患が発症するまで手をこまねいているだけでした。その理由は、国民健康保険のなかに「う蝕と歯周病の予防のための措置」が含まれなかったためですが、発症の根本的な原因を除かずに放置し、ひたすら発症するのを待つタイプの医療が倫理的に許されないのは自明の理でしょう。

そこで、武内博朗先生は早くから「う蝕と歯周病の予防のための措置」の重要性に着目して、当時の国立感染症研究所口腔科学部が総力を挙げて 1999 年から 2000 年にかけて実施した「ヒト口腔からのミュータンスレンサ球菌除菌に関する臨床研究」を先頭に立って牽引しました。その結果、多くの研究者とともに Dental Drug Delivery System (3DS) を確立することができました。

前書『チェアーサイドの 3DS ってなに？ ガイドブック』は国立感染症研究所の成果を臨床家向けに解説したものです。前書は、わが国の 3DS の発展に大きく貢献しました。今日ではアメリカ合衆国においても 3DS とほぼ同一のシステムである Perio Protect Method™が発表され、う蝕と歯周病の原因菌の異常増殖を診療室レベルで制御する医療技術が世界的な規模で提供されるようになっていきます。

本書を活用し、わが国の臨床家がう蝕にも歯周病にもならないための医療技術の 1 つとして 3DS を実施していただくことを願っています。

鶴見大学歯学部探索歯学講座教授
花田信弘